

令和5年度
学校評価報告書

四天王寺高等学校
四天王寺中学校

学校評価に関して

四天王寺高等学校
四天王寺中学校
校長 中川 章治

学校評価の目的の第一は、学校が教育活動および学校運営について、組織的・継続的な改善を図ることです。次に学校評価の実施・結果の公表によって、学校を地域に開かれたものとし、魅力ある学校づくりのために家庭や地域社会との連携を深めていくことです。そして設置者（私立学校においては理事会）が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備などの改善を講じ、教育水準の保証・向上を図ることとされています。

学校評価は、次の3段階からなります。

- | | |
|-------------|---|
| (1) 自己評価 | 教職員が行う評価 |
| (2) 学校関係者評価 | 保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会が、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価 |
| (3) 第三者評価 | 学校と直接関係を有しない専門家等による客観的な評価 |

本校は平成20年4月に学校評価検討委員会を設置し、「学校教育法」および「学校教育法施行細則」に基づき、同年度より学校評価の教員による「自己評価」を実施いたしております。また平成21年度より「生徒による学校評価」を行い、さらに平成22年度より「生徒による授業評価」を実施してまいりました。

本年度（令和5年度）も、11月から12月にかけて、教員による「自己評価」、生徒による学校評価、生徒による授業評価を行い、学校評価検討委員会による「自己評価」等の分析の結果について保護者の代表である後援会実行委員の皆様にご検討いただき、「学校関係者評価」をいただきました。

本校は、「生徒による学校評価」「生徒による授業評価」、そして「学校関係者評価」を真摯に受け止め、聖徳太子様の「和のご精神」に基づき、信念ある人間の育成に力を注ぐとともに、保護者・地域社会・学校の相互連携のもとで、これからの社会変化に対応できる生徒を育成する教育を追求してまいります。

学校教育と学校評価

四天王寺高等学校
四天王寺中学校
学校評価検討委員会
委員長 北田 昇吾

学校評価は、文部科学省の主導の下、教育全体を見つめ直そうという意図で実施されてきました。その眼目は生徒・保護者・教員が三位一体となり、生徒がよりよい教育を享受できるようにという点にあります。この目的のために、学校設置者は教育活動の成果を検証して組織的・継続的に改善を図り、学校設置者および保護者も含めた学校づくりを進めていくことが重要となります。

上記方針の下、本校の「学校評価」の取り組みにつきましては、平成20年4月以来継続して実施しており、令和5年度で16回目を迎えました。

具体的に学校評価とは

目標設定 (Plan) → 取り組み (Do) → 評価 (Check) → 改善 (Action)

というPDCAサイクルを指し、より良い教育活動に向けて毎年展開し、改善を図っていくというものです。

学校評価は、評価自体に目的があるのではなく、将来にわたって学校が充実した教育活動を実施できるように、また学校が常にあらゆる場面で活動的であるために、その手段として評価を行うものであります。

本学園ではこの取り組みに際し、教育方針（目標）を基として、上記のサイクルを実施して「教員自己評価」などの学校評価を行って参りました。

今年度の「生徒学校評価」は、調査の対象学年を、昨年度と同様に高校は大学入試などを控えた3年生を除く1,2年生の2学年、中学は1年生から3年生の全学年の合計5学年として、11月に実施しました。

また、上記の「教員自己評価」、「生徒学校評価」に加えて、学校評価の開始年度より継続して実施の各教科の授業における「生徒による授業評価」の結果をあわせて報告いたします。

報告にあたり、大勢の方々のご協力のもと、令和5年度のご報告が出来ますことにお礼申し上げますとともに、この報告が本校における教育の改善・充実につながる資料となりますこと、また今後も関係の皆様のお力添えを頂けますことを、心からお願い申し上げます。

1. 教育目標

四天王寺学園の設置母体である四天王寺は、推古元年（593年）、聖徳太子によって建立された日本仏教最初の大寺である。聖徳太子は四天王寺で仏教精神を礎とし、世の中の平和や繁栄の実現に貢献すべき人間育成を大志とした「四箇院の制」（悲田院・療病院・施薬院・敬田院）を設けられた。その敬田院が、慈悲救済を使命として生きる、立派な人格者を育成するという教育事業にあたる。

建学の精神は、「敬田院設立の精神」に示される「帰依渴仰 断悪修善 速證無上大菩提處」であり、菩薩のような人間像を範とする人間の育成によって、平和国家の実現と世の人々の幸福づくりを希求するものである。調和を目指す円満なる仏の境地である、「和の精神」を率先垂範できる人間を、世に送り出す教育こそが、尊い社会的使命・役割であり、教育目標である。

聖徳太子の和のご精神を礎とする信念ある女性の育成をはかる。

- (1) 円満で深い人間性をそなえた女性を育てる。
- (2) 将来希望する世界に力強く雄飛し得る学力を養成する。
- (3) 個性を充分伸長できる教育を行う。

2. 中期的目標に基づいた今年度の重点目標 ～Plan～

- (1) 学習や様々な体験を通して和の精神を学び、人間的成長を図る。
 - (ア) 学力の向上を通して冷静で柔軟な思考力を身につけさせる。
 - (イ) 毎日の活動や部活動・学校行事などを通じて協調性を育成する。
 - (ウ) 上記を通して四恩に報いる心、感謝の心、他を思いやる心を涵養する。
- (2) 学びの喜びを理解させ、将来に力強く雄飛し得る学力を養成する。
 - (ア) 教員の指導力、授業力のさらなる向上をめざし、保護者・生徒の信頼に応える。
 - (イ) 規律ある学校生活のもと、自主的・能動的に取り組める生徒を育成する。
 - (ウ) 学力の定着を図る小テスト・確認テストなど適宜実施する。
- (3) 生徒個々人が個性を充分伸長できる情報発信や教育を行う。
 - (ア) 進路指導部と一体になった教員の研究会・講習会参加を通して、十分な情報・知識の習得に努める。
 - (イ) 的確に生徒・保護者に情報を発信し、生徒・保護者の信頼に応える。

- (4) 規律正しい生活習慣の維持・継続を図る。
- (ア) 欠席・遅刻に対する対応をきめ細かく行う。
 - (イ) 登下校時の合掌・礼拝を励行させるよう心の教育を行う。
 - (ウ) 他に誇れるような、通学時のさらなるマナーの向上を図る。
 - (エ) 常に時間を守ることの大切さを意識させ、基本的な生活習慣の継続・維持を図る。
- (5) 様々な人権教育・学習を通して意識を高める教育を行う。
- (ア) あらゆる機会を通して人権教育・学習を実践し、人権尊重の精神を涵養する。
 - (イ) いじめを許さず、保護者・教員・生徒全員でこの問題に取り組む学校作りを目指す。
- (6) 危機管理マニュアルに則り、安全管理の意識を徹底させる。
- (ア) 防災体制を十分理解し、生徒の安全管理の徹底を図る。
 - (イ) 防災意識を高める教育を行う。
 - (ウ) 救命講習の機会を定期的に設ける。
- (7) 教員は自己の教育力向上を目指して積極的に研修等に参加する。
- (ア) 教科指導の向上をめざし、研修に参加する。
 - (イ) 生徒指導、進路指導における知識やスキルを向上させるべく、研修などに参加する。

3. 「教員自己評価」、「生徒学校評価」の各項目における目標評価点（指数）

今年度、基本とする目標評価点（指数）は4.5以上

なお、4.5を必要としないと考えられる項目に関しては、その点を考慮しつつ分析を行うこととする。

※評価点（指数）の算出方法：

$$\begin{aligned} \text{評価点} &= 5 \times \text{A 当てはまる(\%)} + 4 \times \text{B やや当てはまる(\%)} \\ &+ 2 \times \text{C あまり当てはまらない(\%)} + 1 \times \text{D 当てはまらない(\%)} \end{aligned}$$

1 教員自己評価の集計結果と分析について ～Check～

今年度の重点目標(1)～(7)の項目【Plan】ごとに、その取組【Do】の結果について、評価点(指数)に基づいて分析をおこなった。なお、一昨年度、複数の非常勤教員等から「主たる業務が教科指導のため、回答しづらい質問項目がある」という指摘があったことから、昨年度に、質問が「業務対象にあてはまらない」項目についてはA～Dでの回答を要しないように変更した。このため、回答の精度は上昇した一方、集計の母数が回答者全員となっていない質問項目がある。

令和5年度 本年度の取り組みに対する教員自己評価集計結果

回答教員人数：146名 専任・常勤
専任・常勤/全体：68% 99名

A:当てはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない

今年度の重点取組目標 ～Plan～	質問NO	具体的な取組・内容 評価内容 ～Do～	令和5年度				(参考)前年度までの評価点		
			評価点	A	B	C	D	令和4年度	令和3年度
(1)学習や様々な体験を通して和の精神を学び、人間的成長を図る	1	毎日の学校生活が生徒の心の成長に繋がるよういつも心がけ、はたらきかけている。	4.6	67.1%	31.5%	0.7%	0.7%	4.6	4.7
	2	授業では生徒が深い関心や興味を持ち成長できるよういつも取り組んでいる。	4.7	74.8%	23.1%	1.4%	0.7%	4.7	4.7
	3	塔影祭(体育祭・文化祭)や部活動において、生徒の力を十分発揮させることが出来ている。	4.0	41.6%	39.6%	17.8%	1.0%	4.0	3.6
	4	和光館における講話を生徒に積極的に聴かせるよう指導できている。	4.4	47.9%	46.8%	4.3%	1.1%	4.4	3.8
	5	生徒会活動や部活動などいろいろな有意義な活動への参加を呼びかけている。	4.3	53.5%	35.6%	8.9%	2.0%	4.0	3.7
(2)学びの喜びを理解させ、将来に力強く雄飛し得る学力を養成する	6	授業に際しては十分な教材研究をいつもしている。	4.7	75.5%	22.4%	2.1%	0.0%	4.6	4.7
	7	応用力思考力がつくよう授業にいつも工夫を凝らしている。	4.5	56.6%	39.2%	3.5%	0.7%	4.5	4.5
	8	適宜小テストなど使い学習事項の定着を図っている。	3.7	39.3%	30.7%	24.3%	5.7%	3.8	3.8
	9	授業での生徒の反応には達成感・満足感が得られることが多い。	4.1	37.1%	49.7%	13.3%	0.0%	4.0	4.2
	10	授業でICT機器を活用している。	3.9	46.2%	30.1%	13.3%	10.5%	3.6	3.8
	11	授業は規律正しくできている。	4.6	65.7%	32.2%	2.1%	0.0%	4.6	4.6
	12	授業の進度は適切である。	4.4	45.5%	52.4%	1.4%	0.7%	4.4	4.5
	13	生徒一人一人の学習状況をしっかり把握できている。	3.8	29.1%	48.9%	20.6%	1.4%	3.8	3.9
	14	副教材など適切に活用できている。	4.3	56.5%	33.3%	8.7%	1.4%	4.2	4.3
	15	遅進者に適切なアドバイスや支援など、積極的に取り組んでいる。	3.8	32.1%	44.3%	21.4%	2.1%	3.8	3.8
	16	生徒に能動的な学習に向けたアドバイスができています。	4.2	41.5%	48.6%	9.2%	0.7%	4.2	4.2
(3)生徒個々人が個性を充分伸ばせる情報発信や教育を行う	17	生徒の希望、疑問、不安などに対してよく耳を傾け、アドバイスを適切に行っている。	4.5	54.9%	41.7%	3.5%	0.0%	4.5	4.5
	18	成績資料や模試結果などを生徒に対して適切に効果的に利用できている。	3.7	32.5%	39.2%	24.2%	4.2%	3.8	3.5
	19	キャリア講座を始め、あらゆる情報を生徒保護者が利用できるよう徹底している。	4.2	49.5%	38.1%	9.3%	3.1%	3.9	3.1

(1) 学習や様々な体験を通して和の精神を学び、人間的成長を図る

質問 1, 2 は教員の心構えというべき項目で、昨年度に引き続き、評価点は 4.5 以上を維持できている。この状態が継続できるように努めたい。

質問 3, 4, 5 については、コロナ感染拡大前の形態とほぼ同じ形で実施することでため、4.0～4.4 と比較的高い評価になっている。特に質問 5 は昨年度から 0.3 ポイント増加している。

学校行事は教科指導と共に、学校における活動の根幹となる重要なことからすべての教員が学校行事や課外活動を通して「生徒の人間形成に携わる」という気持ちをもって積極的に関わることが常に心がけたい。

(2) 学びの喜びを理解させ、将来に力強く雄飛し得る学力を養成する

質問 6, 7 については、評価点が 4.5 以上と高評価になっており、授業にあたり十分に準備をし、工夫をしていると自覚している教員が多いということになる。また、質問 8 は小テストを必要としない科目もあることも考慮に入れると、妥当な数値かと思われる。

質問 9 の「授業での生徒の反応には達成感・満足感が得られることが多い」は 4.1 で、前年度より 0.1 ポイント増加している。「満足度」は教員の主観に因るところもあり、客観的な判断との差異がないかを検証する必要がある。この質問 9 に対応する「生徒学校評価」の項目 6 「総合的に考えて授業に満足していますか」の評価点は、高校、中学とも昨年度と変わらず、中学は 4.2、高校は 4.0 となっており、教員側と生徒側でほぼ一致していることがわかる。また、質問 9 は「生徒授業評価」の【質問 9】「授業に興味関心をもつことができたと感じている」、【質問 10】「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」に関連する。質問 9 は A, B 評価を合わせた割合が 86.85%、C, D 評価を合わせた割合が 13.3% である。この割合と「生徒授業評価」の【質問 9】、【質問 10】の評価から、教員側と生徒側でほぼ一致していることがわかる。

今後必ずすべての教員が教科・科目の目標に基づいた十分な準備と工夫を行い、絶えず振り返りと検証をし、研鑽に努めることが重要となる。また、教科などの研修については、種々の情報提供や参加のための支援、参加後の情報の共有などについても積極的に行うことが必要である。

質問 10 の評価点は前年度よりも 0.3 ポイント増加しているが、C, D 評価を合わせた割合が 20% を超えている。新学習指導要領にも掲げられているように、教科指導における ICT 活用の推進と教員の指導力向上については学校全体として取り組む必要がある課題である。教員の研修についても、ICT 機器の一般的な使用法に止まることなく、各教科・科目それぞれの指導内容に応じた具体的な活用方法等について研究し、ICT 活用の推進と指導力の向上を図ることが求められる。

質問 11 については昨年度と同じく評価点が高い。この状態を維持できるように努めたい。

質問 12～16 については、質問 14 は昨年度より 0.1 ポイント増加したが、他は昨年度と同じである。質問 13 と 15 は C, D 評価を合わせた割合が 20% を超えているため、生徒一人一人の学習状況をしっかり把握し、遅進者対策については、さらに積極的に取り組む必要があると考えられる。

(3) 生徒個々人が個性を充分伸長できる情報発信や教育を行う

質問 17 の評価点は今年度も目標値を維持している。特に教科の指導において十分に対応ができていることは、生徒授業評価の【質問 4】がどの教科においても A, B 評価を合わせた割合が、ほぼ 95% 以上になっていることから客観的な判断だと考えられる。

質問 18 の評価点は昨年度より 0.1 ポイント減少している。成績資料に関しては、学校の成績処理システムが今年度から変更になったことも原因の 1 つにあると考えられ、使いやすいシステムへの改善が必要である。質問 19 の進路指導に関連する相談や情報の提供に関しては、昨年度よりも 0.3 ポイント高い評価点になっている。対応する生徒学校評価の項目 8 「進路に関する情報提供や相談する体制、キャリア講座などが充実していると思いますか。」の評価が高校、中学ともに 4.0 でほぼ一致している。今後も、進路相談や情報発信を充実させるべく、進路指導部を中心としてすべての教員が取り組むべき課題である。

今年度の重点取組目標	質問NO	具体的な取組・内容 評価内容	令和5年度					令和4年度	令和3年度	
			評価点	A	B	C	D	有効回答率	評価点	令和3年度
(4)規律正しい生活習慣の維持・継続を図る	20	正しい制服・頭髪などについてしっかり指導している。	4.1	42.4%	44.8%	8.0%	4.8%	84%	4.0	4.1
	21	欠席・遅刻に対してきめ細かく対応している。	4.4	50.9%	43.1%	6.0%	0.0%	79%	4.2	4.1
	22	登下校時の合掌・礼拝を機会がある毎に励行させる指導を行っている。	4.2	52.5%	34.7%	9.9%	3.0%	69%	4.1	3.8
	23	通学時の路上や電車内のマナーについて十分指導している。	4.0	42.0%	39.3%	14.3%	4.5%	76%	3.9	3.7
	24	校内美化の徹底を図る指導をしている。	4.2	47.3%	38.4%	12.5%	1.8%	76%	4.1	4.0
	25	常に時間を守る指導を行っている。	4.5	62.0%	31.4%	5.8%	0.7%	93%	4.4	4.6
	26	生徒指導は常に教師全員が情報を共有する意識を持ち、協働している。	4.0	43.0%	38.0%	14.9%	4.1%	82%	4.0	4.0
	27	生徒個々人の状況の把握に努め、必要な場合の指導後は生徒のサポートを十分している。	4.2	45.3%	43.0%	10.2%	1.6%	87%	4.2	4.1
	28	必要に応じて保護者との連携を十分にとっている。	4.5	68.0%	25.0%	7.0%	0.0%	68%	4.3	3.6
(5)様々な人権教育・学習を通して意識を高める教育を行う	29	学級活動・教科活動で人権尊重の意識を高めるようしている。	4.4	53.2%	41.1%	5.6%	0.0%	84%	4.4	4.2
	30	あらゆるいじめ・ハラスメントを許さない意識を徹底することができている。	4.6	65.6%	30.5%	3.9%	0.0%	87%	4.5	4.5
	31	問題が発生した場合には教員全員で共有し、保護者との連携を強く意識し取り組んでいる。	4.5	59.8%	35.9%	3.4%	0.9%	80%	4.4	4.1
(6)危機管理マニュアルに則り安全の意識を徹底させる	32	生徒への安全管理の広報(AEDの場所・気象警報時の対処など)と徹底を図っている。	3.8	29.1%	45.5%	22.7%	2.7%	75%	4.0	3.4
	33	防災意識を高める教育(防災訓練・火災訓練など)を行っている。	4.3	52.2%	37.4%	9.6%	0.9%	78%	4.2	4.0
(7)教科指導、生徒指導上の自己の知識やスキルを向上させる	34	教科指導の向上を目指し、校外研修や校内の研修、授業見学などに参加した。	4.0	47.8%	31.6%	14.0%	6.6%	93%	3.7	3.7
	35	生徒指導や進路指導に関する知識やスキルを向上させるべく、校内研修や校外研修などに参加した。	3.5	35.1%	28.8%	18.9%	17.1%	76%	3.4	2.9

(4) 規律正しい生活習慣の維持・継続を図る

質問 20～28 はほとんどの項目でポイントが増加し、評価点が 4.0～4.5 と比較的高い評価になっている。これらの項目はいずれも、生徒の毎日の学校生活に直結するものであり、教員が常に意識しておかねばならない内容である。目標とする評価点 4.5 以上となるよう更なる努力が望まれる。

(5) 様々な人権教育・学習を通して意識を高める教育を行う

質問 29～31 の「人権教育・人権学習」に関しては、4.4～4.6 の高い評価となっている。質問 30 と 31 は 0.1 ポイント増加し目標指数の 4.5 に達している。しかし、生徒学校評価の項目 17 「現在の学年になってから、クラスやクラブ活動で、いじめられていると感じたことがありますか。」で「あてはまる」と回答し、かつ 18 「それは解消されましたか」について「あてはまらない、あまりあてはまらない」と回答した生徒が中学で 11 名、高校で 6 名となっており昨年度より増加している。すべての教員が協力して、教科の指導も含めたすべての教育活動において、人権を尊重する意識をもって生徒に接し、いじめ等が起こらない環境づくりをさらに進める必要がある。

(6) 危機管理マニュアルに則り，安全管理の意識を徹底させる

質問 33 は昨年度より 0.1 ポイント増加したが，質問 32 は 0.2 ポイント減少している。AED の設置場所等を生徒に対して周知徹底が必要である。また，すべての教員が，実際の災害発生時には指示待ちになることなく，生徒に対して適切な指示をして安全に行動できるよう，平時から防災意識をもっておく必要がある。

(7) 教員は自己の教育力向上を目指して積極的に研修等に参加する

質問 34 は昨年度より 0.3 ポイント増加している。駿台予備校などの教員の研修の機会が増えたことが考えられる。また質問 35 の評価点は，昨年度より 0.1 ポイント増加したものの，まだ 3.5 ポイントに止まっており，十分に研修に参加できているとはいえない状況である。生徒の充実した学校生活と進路実現のためには，教科指導だけでなく，生徒指導および進路指導についても見識を高めることが不可欠であり，積極的に研修に参加するなどの意識改革が求められる。

2-(1) 生徒学校評価の集計結果と分析について

生徒による学校評価については、昨年までの質問を継続している。

令和5年度 回答人数

高校845名（高二[399名] 高一[446名]）

中学847名（中三[286名] 中二[255名] 中一[306名]）

令和5年度 生徒学校評価アンケート集計結果と分析

評価点（指標）の計算式：Aの人数割合×5+Bの人数割合×4+Cの人数割合×2+Dの人数割合×1

A:当てはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない

※評価点の数値が高いほどその項目について望ましい評価であるが、一部項目（17,21）については数値が低いほど望ましい評価、またどちらとも言えない項目（27～29など）があることにご留意ください。

No	質問		評価点	令和5年度				(参考)評価点		
			令和5年度	A	B	C	D	令和4年度	令和3年度	
1	学校では何事にも前向きに取り組んでいますか。	高校	4.2	41.4%	48.2%	8.7%	1.7%	4.2	4.2	
		中学	4.2	36.4%	54.9%	7.3%	1.4%	4.1	4.2	
2	学級活動や学校行事、部活動に積極的に取り組んでいますか。	高校	4.4	56.2%	36.2%	6.5%	1.1%	4.3	4.3	
		中学	4.4	52.8%	38.9%	7.6%	0.7%	4.3	4.3	
3	授業の準備（予習・復習など）を十分に授業に臨んでいますか。	高校	3.6	20.9%	52.5%	22.9%	3.7%	3.7	3.6	
		中学	3.8	24.7%	54.6%	17.2%	3.6%	3.8	3.8	
4	課題や宿題は期限を守って提出できていますか。	高校	4.1	44.4%	38.5%	12.9%	4.1%	4.2	4.4	
		中学	4.1	46.0%	39.4%	11.4%	3.2%	4.0	4.2	
5	授業で、ICT機器の利用を含めて、教材や教え方にさまざまな工夫をしている先生が多いと感じますか。	高校	3.9	34.0%	46.8%	14.0%	5.2%	3.9	4.0	
		中学	4.2	47.0%	42.1%	9.9%	1.1%	4.2	4.2	
6	総合的に考えて授業に満足していますか。	高校	4.0	31.8%	52.0%	12.5%	3.8%	4.0	4.1	
		中学	4.2	41.8%	48.8%	8.3%	1.1%	4.2	4.3	
7	和光館における講話などは多様な知識や人格の形成に役立つものが多いと感じますか。	高校	3.7	28.4%	44.0%	19.5%	8.1%	3.6	4.0	
		中学	3.9	37.4%	43.1%	14.2%	5.4%	3.9	4.1	
8	進路に関する情報提供や相談する体制、キャリア講座などが充実していると思いますか。	高校	4.0	36.3%	48.0%	12.1%	3.6%	4.0	4.2	
		中学	4.0	38.3%	46.0%	13.1%	2.6%	3.9	3.4	
9	(高校)進路について先生とよく相談をしますか。 (中学)先生とよく学習相談をしますか。	高校	2.8	13.6%	28.4%	37.7%	20.3%	2.8	2.8	
		中学	2.4	9.0%	21.6%	42.9%	26.6%	2.6	2.5	
10	進路について保護者とよく相談をしますか。	高校	4.0	41.6%	40.8%	13.3%	4.3%	4.0	4.1	
		中学	3.3	24.0%	35.8%	29.3%	10.9%	3.4	3.4	
11	先生や保護者以外では誰と進路について相談をしますか。（いない場合は未記入）	高校	兄弟姉妹99, 親戚17, 友達294, 先輩32, 塾や家庭教師240						(記述)	
		中学	兄弟姉妹54, 親戚20, 友達215, 先輩23, 塾や家庭教師108						(記述)	
12	服装や髪型など、校則を守るよう心がけていますか。	高校	4.6	74.3%	20.7%	2.4%	2.6%	4.7	4.8	
		中学	4.7	77.5%	20.2%	1.8%	0.5%	4.7	4.8	
13	安易な遅刻や欠席をしないよう心がけていますか。	高校	4.8	84.1%	12.1%	2.5%	1.3%	4.8	4.8	
		中学	4.7	82.5%	13.0%	3.5%	0.9%	4.7	4.7	
14	登下校時の慈母観音様への合掌礼拝を励行していますか。	高校	4.8	85.3%	12.0%	2.0%	0.7%	4.8	4.8	
		中学	4.8	86.1%	11.1%	1.7%	1.2%	4.8	4.8	
15	登下校時のマナーに気を付けていますか。	高校	4.8	80.8%	17.8%	0.8%	0.6%	4.7	4.8	
		中学	4.7	73.8%	24.4%	1.2%	0.6%	4.7	4.7	
16	校則に改善すべき点があると感じますか。	高校	4.2	59.0%	22.4%	12.9%	5.7%	4.1	3.7	
		中学	3.9	50.4%	23.4%	16.3%	10.0%	3.7	3.2	
17	現在の学年になってから、クラスやクラブ活動で、いじめられていると感じたことがありますか。	高校	1.1	0.5%	1.2%	6.0%	92.4%	1.1	1.2	
		中学	1.2	0.8%	1.5%	9.6%	88.0%	1.2	1.2	
18	*(17)でA「あてはまる」、B「ややあてはまる」と答えた人だけ答えてください。それは解消されましたか。	高校	3.1	14.3%	42.9%	28.6%	14.3%	3.6	3.1	
		中学	3.1	35.0%	10.0%	40.0%	15.0%	2.9	3.2	

項目1～8は、重点目標の(1)、(2)に関連した学校教育の根幹となるところに関わる内容である。

項目1, 2は、項目1の高校の評価は昨年度と同じであるが、他は高校、中学ともに、0.1ポイント増加しており、アンケート対象のほぼすべての生徒が、学校生活に前向きに取り組んでいることがうかがえる結果である。

項目 3, 4 は、日々の学習状況についての内容である。項目 3 は、高校で 0.1 ポイント減少している。学年ごとの評価点は高校 1 年が 3.5, 高校 2 年が 3.7 となっており、高校 1 年での授業の取り組みに関する各教科の初期指導が今後さらに必要であると考えられる。中学は全学年同じ評価点となっている。高校、中学とも A 評価が全体のおよそ 30% 未満のため、生徒自身が自信を持って「当てはまる」と回答できるように指導をする必要がある。また、項目 4 の課題、宿題の提出の状況については、高校で 0.1 ポイント減少、中学で 0.1 ポイント増加している。学年ごとの評価点は高校 1 年が 3.5, 高校 2 年が 3.7, 中学 1 年が 4.0, 中学 2 年が 4.2, 中学 3 年が 4.3 となっており、高校、中学ともに学年が上がるほど高い評価になっている。各教科においての課題や提出物の指導が学年が進むほど現れた結果だと考えられる。高校、中学ともに 1 年での課題や提出物に関する各教科の初期指導を含め、今後も継続して指導する必要がある。

項目 5, 6 は教員自己評価で取り上げて分析をした授業に関する項目で、どちらも高校、中学ともに昨年度と同じ評価点である。項目 5 の学年ごとの評価点は、高校 1 年が 4.1, 高校 2 年が 3.7, 中学 1 年が 4.3, 中学 2 年が 4.2, 中学 3 年が 4.1 となっており、学年が上がるほど下がっている。この項目に対応する教員自己評価の質問 10「ICT 機器の活用」のところで述べた C, D 評価を合わせた割合が 20% を超えていることも踏まえ、生徒が持つ Surface の活用も含めて、教員が授業において、ICT 機器も活用して生徒の授業理解度を高めることができるように取り組む必要がある。また、項目 6 については、昨年度と同じである。これに対応する教員自己評価の質問 9「授業での生徒の反応には達成感・満足感が得られることが多い」のところで述べたように、評価は教員側と生徒側でほぼ一致している。しかし、学年ごとの評価点は、高校 1 年が 4.0, 高校 2 年が 3.9, 中学 1 年が 4.4, 中学 2 年が 4.2, 中学 3 年が 4.1 となっており、学年が上がるほど下がっていることを踏まえ、生徒の満足度を高めることができるように授業のさらなる工夫が求められる。

項目 7 は和光館などにおける講話に関する質問であるが、昨年度より「和光館における講話などは多様な知識や人格の形成に役立つものが多いと感じますか。」とし、学校として今後どのように取り組んでいくかについて考える材料となるように変更した。高校で昨年度より 0.1 ポイント増加、中学校は同じ評価となり、昨年度から大きな変化はない。引き続き講話をはじめとする行事のあり方を考えていく必要がある。

項目 8~11 は重点目標の(3)に関連するキャリア形成に関する項目である。項目 8 は、昨年度から「進路に関する情報提供や相談する体制、キャリア講座などが充実していると思いますか。」とし、学校として生徒が進路に関して考えることのできる体制を整備できているかを測り、今後の本校のキャリア教育の改善の参考となるように設問を変更した。評価点は昨年度と高校は変わらず、中学では 0.1 ポイント増加している。今後も生徒が進路について考える体制を継続して取り組む必要がある。また、項目 9 は昨年度までと同様、教員に進路相談をする生徒が多くないという現状が見える。新学習指導要領では、段階を踏まえたキャリア教育の推進が重要とされており、本校においても、生徒一人一人のキャリア形成と自己実現にむけたサポート体制を一層充実し、生徒が気軽に自己の進路などについて相談できる体制をつくることが求められる。また、項目 10 および 11 からは、進路についての相談相手としては、身近な保護者や家族以外にも友達や塾や家庭教師にアドバイスを求めている生徒が多いという様子がうかがえる。中学と高校での評価点の差は、自己の将来に対する見方、考え方の発達段階における違いによるものと考えられる。

項目 12~15 は「規律正しい生活習慣」や「マナー」に関する項目である。昨年度と同様、本校の生徒がいかに真面目であるかがよくわかる結果となっている。

項目 16 では「校則に改善すべき点がある」と感じている生徒の割合が高校・中学ともに増加している。校則については、学校において学習社会環境や生徒の状況の変化に応じて、適宜見直して改定を行っているが、教員は校則を守るように指導するだけでなく、生徒が校則を自分のものとしてとらえて自主的に校則を守るようにすることを意識した指導を行うことが求められる。

項目 17～21 は、人権に関する項目である。まず、項目 17, 18 は、いじめに関する質問である。項目 17 の評価点は、昨年度と同じ小さい値であった（値の小さい方が好ましい項目）。しかし、項目 17 で「A 当てはまる」を選択し、かつ項目 18 で解消されたかに対して「D 当てはまらない」と回答した生徒が高校で 2 名、中学で 3 名あった。このような回答が一人でもあることに対しては、人権教育部の実施している「いじめに関するアンケート」の結果とあわせて、人権教育部や生徒指導部を中心として学校全体で連携して対応することが求められる。いじめが疑わしい事象の早期発見、早期対応のためには、生徒の日々の様子に注意を払い、気になる事例については、情報の共有と可視化を図り、保護者、家庭と連携した対応ができる組織作りが不可欠である。

No	質 問		評価点	令和 5 年度					令和 4 年度	令和 3 年度
			令和 5 年度	A	B	C	D			
19	悩み事があった場合、相談できる先生や大人（保護者など）がいますか。	高校	4.1	50.3%	32.0%	10.9%	6.8%	4.0	2.4	
		中学	4.1	54.1%	26.0%	12.3%	7.6%	4.0	2.3	
20	あらゆる場面で人権尊重の意識を持って行動していますか。	高校	4.5	60.5%	34.5%	3.1%	1.9%	4.5	4.5	
		中学	4.4	53.5%	39.8%	5.6%	1.2%	4.4	4.3	
21	先生からハラスメントと感ずることを受けたことがありますか。	高校	1.5	4.1%	6.0%	20.2%	69.8%	1.5	1.5	
		中学	1.5	2.3%	6.0%	17.8%	73.9%	1.5	1.4	
22	自分自身の健康管理（食事・睡眠など）に気をつけていますか。	高校	3.8	36.8%	38.9%	19.4%	4.9%	3.8	3.9	
		中学	3.7	31.4%	39.9%	22.8%	5.9%	3.7	3.8	
23	学校では、保健室を中心に、けがや病気（体調不良）について適切に対応できていると感じますか。（★R4新規項目）	高校	3.3	24.8%	37.4%	21.2%	16.7%	3.6		
		中学	3.7	35.7%	35.3%	17.8%	11.2%	3.8		
24	防災訓練などで災害が起こった場合の行動について理解できていますか。	高校	4.4	55.7%	39.1%	4.0%	1.2%	4.4	4.3	
		中学	4.6	63.4%	32.9%	3.0%	0.7%	4.5	4.4	
25	校内にある防災器具（消火器等）や救命器具（AED等）の場所はわかりやすく整備されていると思いますか。	高校	3.8	32.6%	42.8%	19.9%	4.7%	3.8	3.1	
		中学	3.7	30.4%	42.9%	20.8%	5.9%	3.8	2.6	
26	教室の整理整頓・美化に努めていますか。	高校	4.1	42.5%	42.8%	11.9%	2.8%	4.1	4.3	
		中学	4.0	39.0%	44.5%	13.9%	2.6%	4.0	4.3	
27	図書室をよく利用しますか。	高校	1.9	7.5%	11.1%	23.8%	57.6%	2.0	1.8	
		中学	1.9	7.4%	11.2%	26.8%	54.5%	2.0	2.0	
28	学習（自習）スペースをよく利用しますか。	高校	2.7	19.9%	22.1%	26.8%	31.2%	2.6	2.5	
		中学	2.8	21.0%	23.2%	28.3%	27.5%	2.7	2.5	
29	校内の食堂や購買をよく利用しますか。	高校	3.4	29.9%	33.1%	25.1%	12.0%	3.3	3.4	
		中学	3.5	34.8%	30.8%	22.6%	11.8%	3.6	3.7	
30	校内の施設は充実していると思いますか。	高校	3.4	24.5%	40.2%	23.8%	11.4%	3.4	3.3	
		中学	3.7	32.5%	41.7%	18.2%	7.6%	3.7	3.6	
31	学校生活に必要な情報が、プリントやすぐーる、Teams、ロイロノート、ホームページなどで伝えられていると思いますか。（★R4新規項目）	高校	4.0	37.8%	44.7%	12.6%	4.9%	4.1		
		中学	4.3	48.3%	41.4%	7.8%	2.5%	4.3		

項目 19 は、一昨年度までは、「悩み事があった場合、先生と相談していますか。」と相談相手を教員に限定して問うていたが、昨年度から相談相手を「先生や大人（保護者など）」と広げた。高校、中学とも評価点は 0.1 ポイント増加したが、まだ 2 割弱の生徒が C, D を選んでいる。学校（教員、スクールカウンセラーなど）と家庭（保護者）がより密接に連携して、様々な悩みをもつ生徒に対してサポートをする体制が必要である。

項目 20 の人権尊重の意識に関する質問については、評価点は昨年度と変わらず高い評価になっている。引き続き、学校や家庭をはじめ、あらゆる場面で人権尊重の意識を持って行動できるように指導を行う必要がある。

スクールハラスメントに関する項目 21 (値の小さい方が好ましい項目) は、昨年度と同じ小さい値であった。しかし、教員の側が意図していない場面でも、言葉遣いや態度によっては厳しい指導とを感じる生徒がいることを意識しなければならない。

項目 22～25 は、健康および危機管理に関連した項目である。22 の健康管理に関する質問については、高校、中学ともに評価点が 4.0 未満で、気になるところである。保健室からも毎月保健便りを配信してもらっているが、健康管理の大切さを生徒に再認識させていく必要があると考える。

項目 23 は昨年度に新たに追加した項目である。コロナ感染症の拡大に伴って、保健室を中心に担任など多くの教員が健康管理に携わる機会が急増したが、その対応について生徒がどのように感じているのかを把握することを目的として設けた。評価点は高校、中学ともに昨年度より下がり、4.0 未満である。特に高校の評価が大きく下がったこと真摯に受け止める必要がある。生徒から出た情報を教員は保健室に伝えるなど、教員と保健室が連携して取り組んでいく必要がある。

項目 24, 25 は防災に関する内容である。項目 24 は、一昨年度までは「防災訓練にまじめに取り組んでいますか」という設問であったが、昨年度から「災害が起こった場合の行動について理解できているか」という内容に変更し、生徒が災害時にどのような行動とるべきかの認識度を測る質問にした。評価点は、高校 4.4、中学 4.6 と高い結果となっている。また、項目 25 は、一昨年度までは「防災器具や AED の場所を知っているか」「AED の場所を示す張り紙があるのを知っているか」という生徒の認知を問う設問であったが、昨年度から、「校内の防災機器・救命器具の場所などがわかりやすく整備できていると思うか」という内容に変更し、学校として防災安全対策が十分にできているかを検証する設問とした。評価点は昨年度と高校は変わらず、中学は 0.1 ポイント減少している。約 25% の生徒が C, D を選んでいることを踏まえ、防災設備の設置場所の確認を周知徹底する必要がある。

項目 26 の教室の美化に関しては、評価点は昨年度と変わっていない。教室の清掃や整理整頓は、快適な学校生活を過ごすためには欠かせないため、毎日の終礼などで指導を徹底することが必要である。

項目 27～30 は学校施設に関する設問である。項目 27～29 の各施設の利用状況については、昨年度とほとんど同じ状況である。学習(自習)スペースは、使用する生徒はほぼ毎日、早朝から放課後もよく利用しており、40%以上の生徒が利用していることがわかる。

項目 30 の「施設の充実」については、評価点は昨年度と変わっていないが、評価点は 4.0 未満である。生徒がどのような施設を求めているかなどの調査を行い、実現に向けて中長期計画に基づいた施策が求められるところである。

項目 31 は、昨年度に追加した質問項目である。評価点は 4.0 以上で、学校からの情報などについては、ある程度、満足できる状態で生徒、保護者に提供できているものと思われる。

2-(2) 生徒授業評価の集計結果と分析について

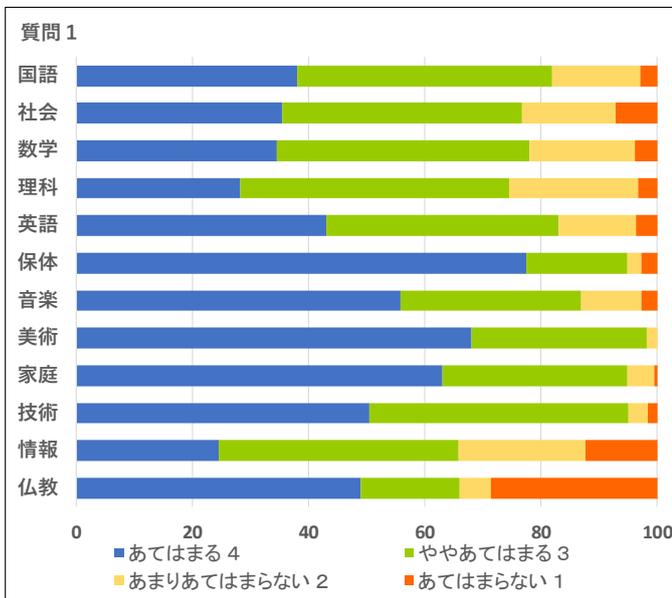
生徒による授業評価は、指導力の向上や授業の改善を図り、生徒にとって「魅力的な授業」「わかる授業」を実現するとともに、生徒自らが学習への取組を自己評価することで見つめ直すことを目的として、学校評価を開始して以来、継続して調査を実施している。従来から、集計結果は授業を担当する教員および各教科内での授業改善に役立ててきたが、昨年度から、学校全体として「授業改善」に役立てることを目的として、教科毎の集計結果をまとめて可視化を行った。

集計にあたっては、各教科とも高校、中学の両方の授業を担当している教員も多いことから、高校、中学の調査結果をあわせて集計した。また、授業時間数、担当教員が多い教科と少ない教科がある（教科によって2～33人）が、集計結果は、各質問について、教科ごとに「4～1」の回答の割合(%)で表している。また、実習・実技を中心とする科目では、質問の内容が異なる項目もあることにもご留意いただきたい。

《生徒による授業評価(2023年度)》教科別集計 (%) ※中高全体

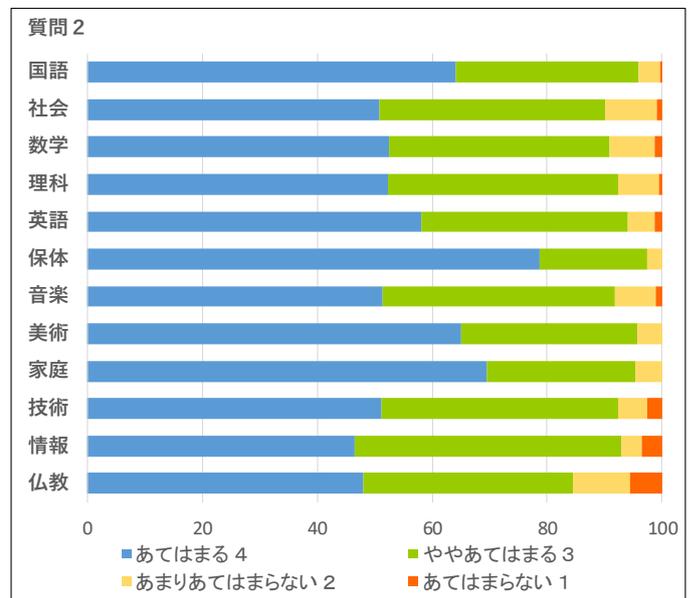
【質問1】

授業内容について、必要な予習や復習ができています。
(実習・実技科目) 授業中は集中して先生の指示やアドバイスを聞いている。



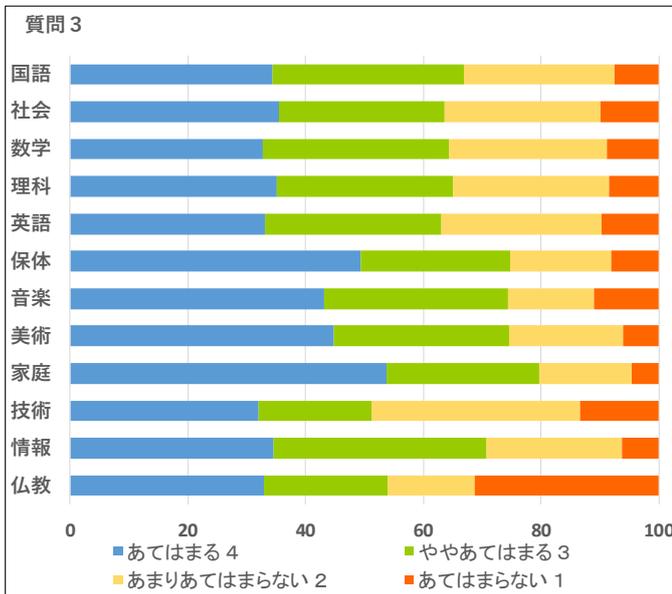
【質問2】

授業中は、集中して先生の話聞き、学習に取り組んでいる。
(実習・実技科目) 進んで実習に取り組むなど、主体的に授業に参加している。



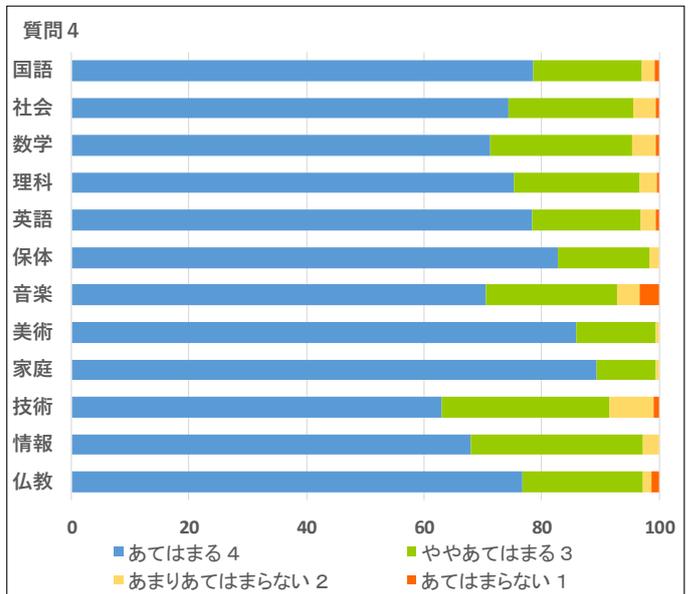
【質問3】

授業でわからないときは、質問している。
(実習・実技科目) 授業で、うまくいかなかった点やわからない点は質問している。



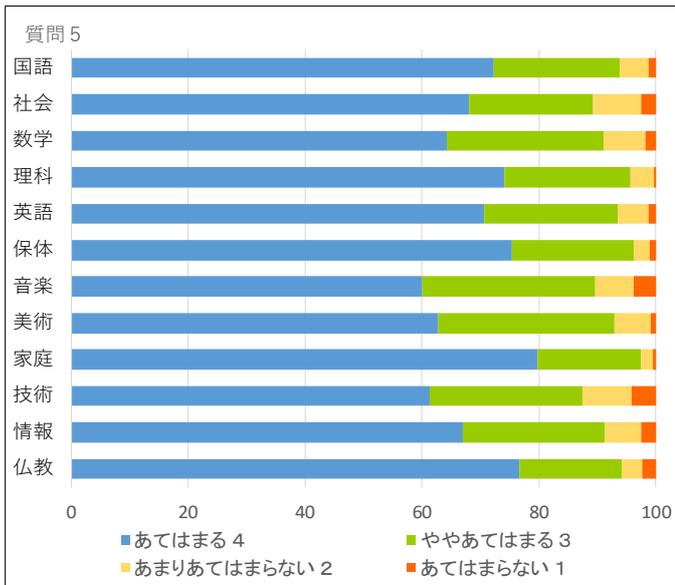
【質問4】

先生は、授業の目標や大切なポイントを説明してくれる。
(実習・実技科目) 先生は、授業の目標や実習・実技の方法を説明してくれる。



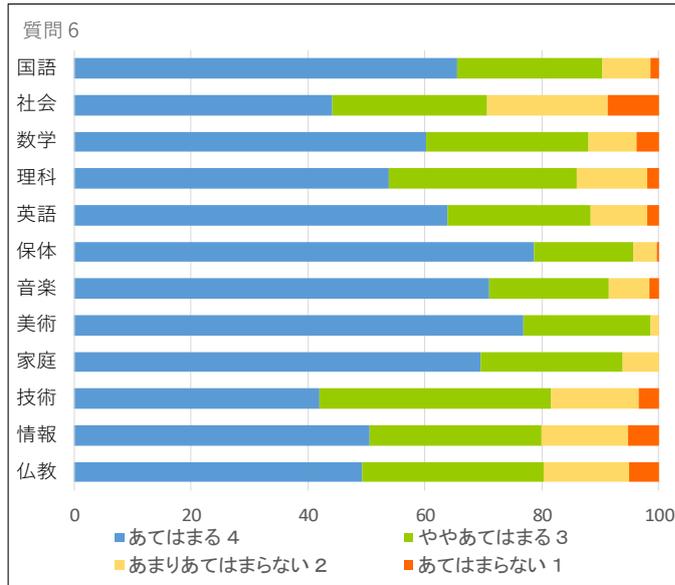
【質問5】

授業では、黒板やプリント・電子黒板やPC(surface)が、理解・整理に役立つように活用されている。
 (実習・実技科目) 授業で与えられる教材や課題の量は自分にとって適切である。



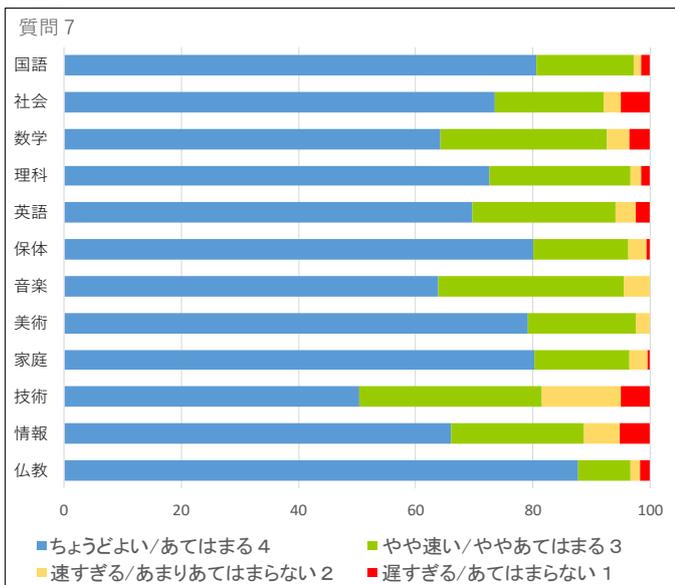
【質問6】

授業では、自分で考える時間や、発言する機会が多い。
 (実習・実技科目) 自分で考える時間や、主体的に活動する時間を多く取り入れている。



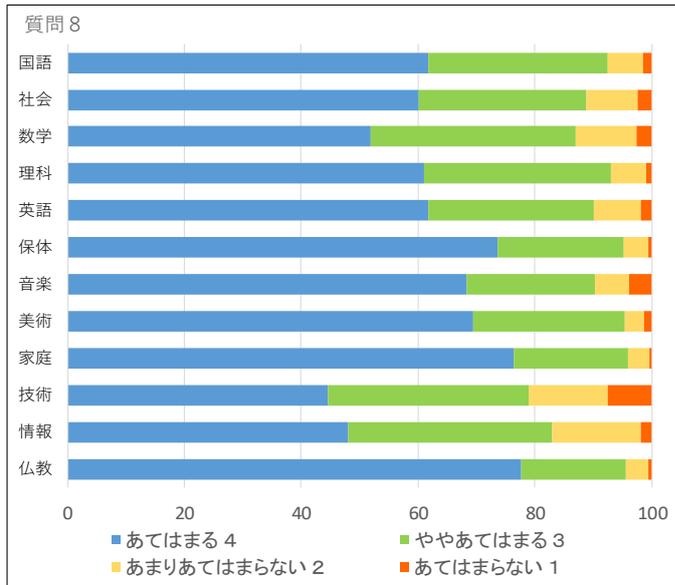
【質問7】

授業の進む速さは、ちょうど良い速さである。
 【4:ちょうどよい 3:やや速い 2:速すぎる 1:遅すぎる】
 (実習・実技科目) 先生は生徒の状況を把握しながら授業を進めている。



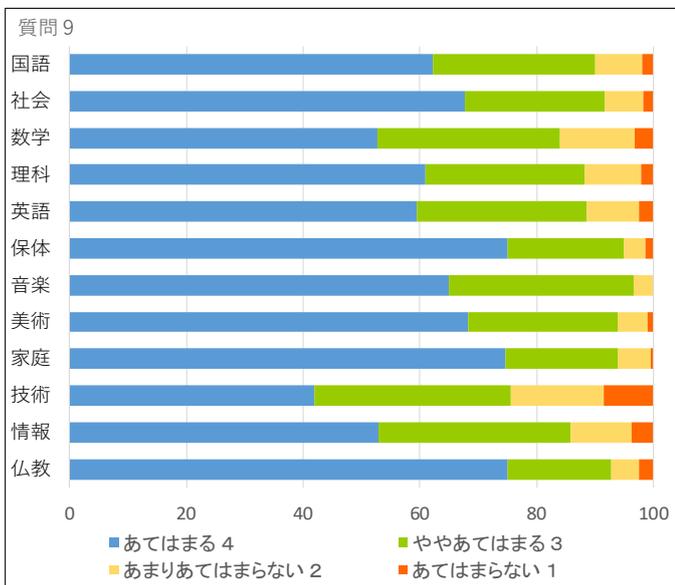
【質問8】

先生は生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている。



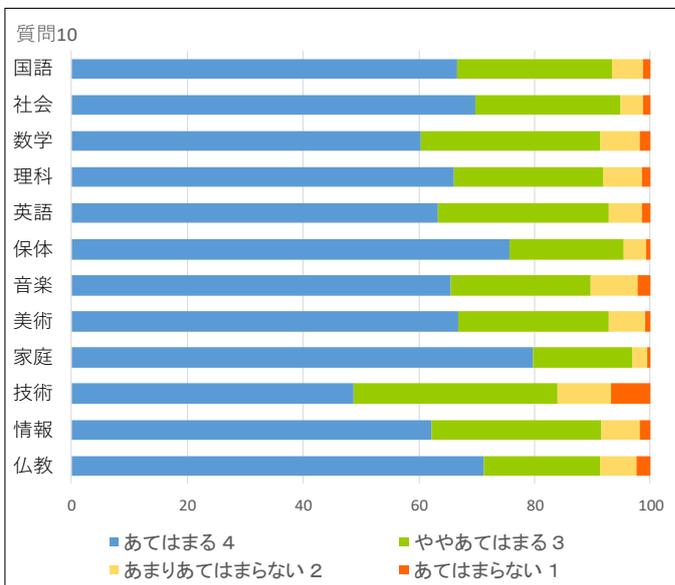
【質問9】

授業に、興味・関心をもつことができたと感じている。



【質問10】

授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。



質問 1～3 は、生徒自身に係わる質問である。質問 1 は、生徒学校評価の項目 3, 4 と関連しており、ほぼ相関の見られる結果である。また、質問 3 では「授業でわからないときは質問している」が 60% 台の教科が多い。教員自己評価の質問 13 や 15 の結果とあわせると、教員が授業中の生徒の反応を的確に捉えて質問しやすい環境をつくっていく必要があると思われる。

質問 4～10 は、授業内容や教員の指導方法に関する質問である。多くの質問項目において「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせて 80% を超えている教科が多く、日頃の教育活動に一定の評価が得られているものと思われる。教員は、これらの結果を真摯に受け止め、教科、科目による授業の特性を活かしながら、各教科、科目における授業の理解度が向上し、生徒の授業に対する満足度がより高くなるように努める必要がある。

3. 本年度の分析結果のまとめと 次年度目標へ反映すべき項目～Action～

- (一) 教員は、真摯に教育活動に取り組む姿勢を堅持し、独善的な判断や押しつけに陥ることの無いよう、また、社会、環境の変化を的確につかみとりその状況に応じた適切な学びを提供できるよう、常に自己を省み、常に探究心や学び続ける意識を持つことが必要である。(本校の学びの礎)
- (二) 教員は、主体的で対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（「新学習指導要領・総則」より）を行う。これまでの教育実践の蓄積に基づく授業改善の活性化により、生徒の知識の理解の質の向上を図り、これからの時代に求められる「思考力、判断力、表現力」「主体的に学びに向かう力」などの資質・能力を育くむことのできる「魅力的な授業」「わかる授業」を実現できるようにする必要がある。(「生きる力」の育成)
- (三) 教員は、生徒にとって「魅力的な授業」「わかる授業」を実現し、生徒が能動的に学習できるように、生徒のタブレット PC の活用、デジタル教科書の導入など教育の ICT 化を積極的に行うことが求められる。ICT 機器の活用などにおいては、使うことが目的ではなく、活用によって従来よりも効果的に学習内容が定着できることが重要である。また、学校はそのために必要な研修などの拡充を図らねばならない。(教育の ICT 化)
- (四) 学校活動のあらゆる機会において、人権を尊重する心を育み、生徒・教員・保護者が連携して、いじめや人権の侵害を許さず、すべての生徒が安心できる学校づくりを推進する。(人権教育の推進)
- (五) 生徒の学校生活における学習指導や生徒指導、健康・安全指導などに関連する事象については、家庭・保護者と積極的な連携を図る必要がある。生徒や保護者との面談、懇談などにおいては Teams などのコミュニケーションツールも適切に活用することが望ましい。また、学校は、すぐーるやホームページなどによる情報発信を積極的に行い、開けた学校づくりを推進する。(保護者・家庭などとの連携)
- (六) 教員は、教科指導、進路指導、生徒指導、学校安全等の研修会へ積極的に参加する必要がある。特に、新学習指導要領に伴う学習評価方法の改善に関する研修は急務かつ重要である。また、これまでの教育実践の蓄積を若手教員にもしっかりと引き継ぎつつ、授業を工夫・改善し、新しい授業形態にも対応できるよう、教員の相互授業参観などもより積極的に行う。(研修などの充実と教科指導の継続)

令和5年度 学校関係者評価

四天王寺高等学校・四天王寺中学校後援会
会長 岸田 邦幸

本年度の学校関係者評価は以下の通りです。

学校評価検討委員会はPDCAサイクルを教育現場に応用し、生徒がより良い教育を享受できるようにする為に教育活動を検証し、改善点を探るといった試みは大いに評価できる。また同委員会の掲げる教育目標、中期目標に基づいた今年度の重点目標については全く異論がない。

教員自己評価集計結果は全体としてはほぼ昨年と変わらないが、コロナ禍が明け、通常の学校行事が実施できるようになり、生徒会活動（質問5）、キャリア講座などの情報提供（質問19）や積極的な参加推奨の改善がみられる点は高く評価できる。また、昨年ポイントを下げた授業でのICT機器の活用（質問10）については改善が見られたが、評価点3.9とまだまだ充分とはいえないので、今後は早急に活用範囲を広げていただけるよう要望したい。また、生徒の学習状況の把握（質問13）、遅進者への対応（質問15）、成績資料や模試結果の効果的な利用（質問18）については横ばいか、わずかに評価点が下がっている。元々他の項目に比べて毎年評価点が低いことも気になる。生徒と教員との信頼関係を構築する為にも必要な重要項目である為、改善を求めたい。

生徒学校評価結果では、総合的に授業に満足している（質問6）生徒が多いことは高く評価出来る。しかしながら、先生とよく相談するか（質問9）という項目が2点台と低調で、中学生についてはポイントが下落している点が気付きである。上記の教員の結果とも考え合わせると、教員と生徒のコミュニケーション不足ということになる。教員が各生徒の状態把握に努め、積極的かつ配慮ある声かけを行う等、一層の努力をお願いしたい。また、保健室の対応（質問23）については例年3点台と低評価な上、今年度は高校で0.3点、中学で0.1点の下落となっている。年頃の女子特有の様々な体調不良、精神的な不安定さもある中で、保健室が安らぎの場になるよう早急に改善を求めたい。図書室の利用（質問27）については1点台とあまりにも低い評価で残念である。読書の楽しさを多くの生徒に感じてもらえるよう工夫をお願いしたい。

教職員の皆様のご努力により、多くの改革、改善がなされ、生徒達が安全で充実した学校生活を送っていることに深く感謝申し上げます。より良い学校環境の為、上記の内容をご参考いただき、更なる改善、ご検討をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

以上